

「第三の犠牲者」

医療安全心理・行動学会理事長

東北大学医学部臨床教授

岩手県立中央病院循環器センター長 兼 医療安全管理部長

小田 克彦

医療事故の当事者の患者は「第一の犠牲者」とも呼ばれ、さらに医療者側の当事者は「第二の犠牲者」と呼ばれ、不条理なシステムの被害者である側面があるとの指摘があり、当事者の医療者だけを責めてはならない、その背景にあるシステムの問題を科学的に分析しなくてはならないと日常の事故調査や再発防止策の立案時には心がけているところでございます。その一方で、医療事故の当事者が「不安全行動」や「誤治療」や「誤診」から患者さんに対して害を与える結果を引き起こした場合、往々にしてその誤りを周囲から指摘されたその当事者は、自己の強引な正当化のために「逆上」や「暴走」といった行為に打って出て、事故対応にあたる医療安全管理者に対し、不当に攻撃的な言動を浴びせ、一つ間違えば、医療安全管理者を「第三の犠牲者」にしかねない状況も時に経験しております。

医師が医療安全上最善と思われる指示の出し方をしようとし、周囲の医療職が誤りを指摘しても間違いを決して受け入れない、受け入れないどころか、その指摘した医療者を不当に悪者呼ばわりするなど、極めて問題のある行動も時に経験するところです。こういった「不安全行動」の常習者の医師は、患者さんのために最善の医療を提供したいと口ではいっていることが多いのですが、実際は非常に余裕がなく、さまざまな理由から医療安全の優先度が極めて低い状態になっていることが多いと感じています。その医師が非常に余裕がない状況に置かれているという現実から見れば、その医師が当たり前のように事故を起こした時、100歩譲ってこの医師のことを「第二の犠牲者」と捉えることもできないとは思いますが、一般に言われるようなシステムの被害者とは少し毛色が違うのかなと感じております。

また、冒頭で言及した不条理なシステムというものなかなか手強いもので、失敗した当事者は「第二の犠牲者」そのものですが、そのシステムの改善に医療安全管理者が着手しようとする、頑強な抵抗に遭うこともよく経験するわけです。いかに理を説き、合理的な改善案を提案したとして、一顧だにして貰えず、事実上無視されてしまう。こうして医療安全管理者はこうした状況においても「第三の犠牲者」になりかねないと憂いでいるところでもあります。

多くの医療者（体感的には医療者の80%程度）は、例えばゼロレベルを出しましょう、TeamSTEPPSを実践しましょう、などと医療安全が呼び掛ければ、日々それを実践しようと頑張っただけのものであります。しかし、残りの20%ほど、特に一部の医師にはそれは全く馬耳東風であり、医療安全のために最善を尽くそうなどとは夢にも思っていないわけです。そして、当然のように日々「不安全行動」をやり続け、何かあれば隠蔽したがりに、指摘されれば逆上するという行動を平然ととるわけです。私は、これらの余裕のない医師に対し心理学的、行動心理学的アプローチをとることで、何らかの形で事態を好転させられないかと期待をしているところでございます。

しかし、2、3年ごとに交代している各病院の医療安全管理者にとり、そうした医師などの存在は、自らの職責に対するストレス、脅威そのものに他なりません。孤立無援にそうした医師への対応を強いられている医療安全管理者も数多くいらっしゃるのではないかと危惧するとともに、大変同情しているものです。

私から申し上げたいことは、決して無理をしないでいただきたいということです。病院上層部と問題を共有し、決して一人で抱えないでください。あまりに目に余る事例は、病院全体で問題として共有すべき案件であり、一人の医療安全管理者が抱えるにはあまりにも理不尽で、不条理な状況だと思えます。

1999年の医療安全元年から四半世紀が経過する中、医療安全管理者の側でスキルや知識の積み上げは困難な状況が続く中、正義感に燃えた新任医療安全管理者にとり想像を絶するような、信じられない「性悪な医療者、性悪なシステム・状況」が実在するのであり、そこに竹槍で戦いを挑むようなことはやめましょう。せっかくの尊い心意気、やる気を折られないように周囲が守ってあげましょう。

私たちの学会は、こうした状況に解決策を提案できる可能性をもつ有力な学会の一つであると期待しております。

第2回医療安全心理・行動学会学術総会

共同総会長挨拶

篠原 一光

大阪大学大学院人間科学研究科 教授

第2回医療安全心理・行動学会を大阪大学にて開催させていただきます。本学会は医療安全の研究と実践に関わる医師・看護師・薬剤師など医療従事者と、心理学、行動科学、社会学等様々な研究領域で安全に関する研究をおこなっている研究者が協働し、医療安全を推進する場を作ることを目指しているものです。私自身は認知心理学の立場から道路交通安全を中心として研究を行っており、医療安全領域での研究を専門としているわけではありませんが、安全に関する心理学研究を行っている専門家と、医療安全領域の橋渡し役としてお役に立ちたいと考えております。医療安全を専門とされている方もまたそうでない方も、本大会にご参加いただき、広く「安全」について語り合い考える機会としていただきたいと思います。



第2回医療安全心理・行動学会学術総会

テーマ:医療現場と心理学・行動学の架け橋

2025年3月8日(土)～9日(日) 大阪大学コンベンションセンター/Web配信

